

国際研修第10回「紙の保存と修復」(修05-06-1/5)

目 的

海外で所蔵されている絵画や書跡、冊子などの紙文化財は、日本と違った気象条件で長期間保存されてきたために、損傷を持った作品が多い。また、担当者の不慣れな取り扱いによって作品を破損する場合もある。日本美術品の保存・修復・活用を行うには、材料・技法などの基礎的な理解と基本的な取り扱いや修復に関する実技研修が必要であるが、海外でその様な機会を得ることは困難である。本研修は、紙文化財に関する保存修復の講義および演習を通して、研修参加者に、紙文化財に関わる基礎知識を伝えるものである。

概 要

研修日程 2006(平成18)年9月11日(月)~9月29日(金)

研修場所 東京文化財研究所、長谷川和紙工房、美濃和紙の里会館、京都国立博物館文化財修理所

研修対象 紙文化財の保存と修復を担当する学芸員、修復技術者、科学者および保存担当者

研修内容

- <講 義> 川野邊渉(東京文化財研究所)「文化財修復に用いられる膠着剤について」
池田寿(文化庁)「日本の紙文化財の保存と修復」
山本記子((株)文化財保存)「絵画材料・装潢材料とその使い方」
岡泰央((株)岡墨光堂)「装潢技術概論」
稲葉政満(東京芸術大学)「和紙入門：製造法、耐久性、水分変化の影響」

<実 習>

- 9月12日~16日 工程の説明、糊の調製、補紙、補紙削り、肌裏打ち、増し裏打ち、仮張り、折れ伏せ
9月17日~19日 エクスカーション(岐阜県美濃市長谷川和紙工房、見学/美濃和紙の里会館、展示資料
観覧及び和紙の手漉き/京都国立博物館文化財修理所、国宝修理装潢師連盟)
9月20日~29日 本紙継ぎ、軸付け、仕上げ、巻緒つけ、掛け軸・屏風の取り扱い、掛け軸・冊子の応急
処置

<ディスカッション> 研修全体を通しての成果、疑問などについての討論

- <研修参加者(10名)> バルバラ・ヴィチオッキ(ベネチア東洋美術館)
キルステン・プレスラー(デンマーク王立図書館)
マリア・フロレンシア・ヘア(アルゼンチン連邦博物館友好協会)
ソーヤン・ジョン(韓国国立文化財研究所)
フィオナ・ケンプ(オーストラリア国立美術館)
ベルトラン・ラヴェドリン(フランス国立歴史自然博物館)
フィオナ・ジェーン・マッキノン(ライデン国立民族博物館)
ゾフレ・モラードハーニー(イラン現代史学研究所)
アナ・アリエッタ・レヴィティ(ギリシア国会図書館)
ミナ・ソン(アメリカ芸術歴史文化遺産保存センター)

報告書 1件

・『International Course on Conservation of Japanese Paper, 2006』 東京文化財研究所 166p 07.3

研究組織

加藤寛、早川典子、加藤雅人、長瀬万里、加藤恵(以上、修復技術部)